

文教大学付属小学校

【理事長】野島 正也

【校長】島野 歩

〒145-0065 東京都大田区東雪谷2-3-12 TEL 03-3720-1097 <https://www.bunkyo.ac.jp/ps/>

【交通】東急池上線石川台駅下車徒歩2分、バス停笹丸より徒歩3分

1時間ごとに成長できる学校

～徹底した「少人数教育」、
多様な価値観を受け入れる「国際人」の育成～

「人間愛」の教育

「慈愛の心をもった子ども 自ら学ぶ子ども 情操豊かな子ども 頑張る子ども 明朗な子ども」が本校の教育目標です。これらの目標は、本校の教育・指導の目的をただ平板に並べているのではなく、学園の建学の精神に基づき、特に「慈愛の心をもった子ども」の育成に集約されるものと考えています。

「本物と出会う」体験活動の充実

豊富な体験活動を通して「子どもの心に火をつけたい」という願いから、どの学年のカリキュラムにも充実した体験活動を取り入れています。

1、2年生では動物や魚たちとの触れ合い、季節感を大切に自然体験、3、4年生では八ヶ岳での田植えや乳しぼり体験、5、6年生では北アルプスの大自然に触れ、地引き網も体験します。このように、「本物との出会い」によって自分たちがさまざまな環境や人に支えられていることを知り、いつか自分の力を誰かのためにという社会貢献につながる礎にしていきたいです。9月の全校宿泊では、1年～6年までの全校による縦割り活動でリーダー性を養います。

校舎の真ん中に吹き抜きの図書館

数年前、新校舎建て替えの際、校舎の真ん中に吹き抜きの図書館、そして全館図書館という構想において現校舎が誕生しました。「子どもたちの人生において、傍らに本がありますように」という願いは今、この真ん中の図書館によって具現化されています。子どもたちは本が大好きです。わざわざ図書館に向かなくても、教室を飛び出すと目の前に本がある環境は、子どもたちを本に親しませるばかりでなく、「読む力」「書く力」にも直結してきています。英語の絵本や小説も豊富にあり、本校の図書館は多様な価値観と言語に触れ合う絶好の場となっています。



沿革

昭和2年、学校法人立正学園創立。当初、幼稚園および裁縫女学校を開設、のち家政女学校、高等女学校を開設し、戦後の学制改革により幼稚園、中学校、女子高等学校に改組。昭和26年、一貫教育体制を整えるため立正学園小学校を開設。その後、校名・法人名等の変更を経て、昭和60年より現校名。

2025年度募集要項

募集人数：50名（25名2クラス）
願書受付：【1回目】郵送必着10/7(月)～10/25(金)
必着、窓口10/29(火)～11/2(土)
【2回目】窓口11/12(火)～11/20(水)
審査料：20,000円
面接：【1回目】10/15(火)～11/5(火)
【2回目】11/13(水)～11/21(木)
※1・2回目とも日・祝除く。除外日を1日だけ指定可。保護者は1名でも可
入学審査：【1回目】11/6(水)【2回目】11/22(金)
合格発表（速達簡易書留）：【1回目】11/7(木)
【2回目】11/23(土・祝)
入学手続：【1回目】11/8(金)・11(月)
【2回目】11/25(月)・26(火)
【かかる費用（2024年度参考）】
入学金：200,000円 維持費：140,000円
授業料：年額528,000円（月額44,000円）
入学年度合計：906,000円

併設中学進学状況

◆文教大学付属中学校（男10人、女9人）

2024年春の合格実績

栄東5、香蘭女学校4、東京都大等々力、東邦大付東邦、学習院女子、品川女子学院、女子学院、洗足学園、浦和明の星女子、淑徳与野各2、都立白鷗高附、慶應義塾中等部、渋谷教育学園渋谷、青稜、法政大第二、明大付明治、麻布、芝、世田谷学園、浅野、豊島岡女子学園各1など

データパック

◆児童数329人/教員数30人
◆24年度応募者数：男子96人、女子84人
◆合格者数：男子28人、女子28人
※付属幼稚園からの進学者を含む

【併設校】

○文教大学付属幼稚園、付属中学校・高等学校
○文教大学

上級学校に進むには

成績等が一定の基準に達し、学校長が推薦にふさわしいと認められた者は、全員が付属の中学校に進学可能です。

一人一人の可能性を見つめ、
時代を拓く力へ導く！

学校長 島野 歩

子どもたちの笑顔は、私たちにとって、かけがえのない「宝」です。

その笑顔がますます輝きますよう、一人一人の可能性を最大限に引き出し、伸ばしていくことは、私たちの大きな責務でもあり、喜びでもあります。

本学の建学の精神「人間愛」を礎に、本校児童のあるべき姿を教職員と共に求め続け、「豊かな心」の育みと「確かな学び」の追究に尽力しております。

子どもたちは、自分の良さや可能性を切り拓く力を自分の内に持っています。

だからこそ、子どもの真の力を見つめ、子どもに学ぶ教師、子どもに寄り添う教師、そして子どもを育てる教師で在らねばなりません。

「教えられる学校」から「学ぶ学校」へ。

「学びを創る学校」を希求してまいります。